

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

富田林市長 吉村 善美

市町村名 (市町村コード)	富田林市 (27214)
地域名 (地域内農業集落名)	甘南備地区 (甘南備・蒲)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年8月17日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

地区内の農業上の利用が行われる農用地等面積は71.9haであり、うち35.9haが農用地区域指定を受けている。また、全体の内、15.3haでは場整備が実施された土地である。
地区内では水稲を中心に一部野菜と果樹が生産されている。
全体の約18%が利用権設定及び小作権設定済の集積された農地である。
アンケート回答者の内、53%が70歳以上であり、後継者有の割合も26%と3割に満たない現状である。農地は多いが、人手が足りていないという状況であり、近い将来農業の担い手が不足することが予想される。
また、アンケート回答率を見ると49%の割合で未回答があり、残りの35.2haについて、意向を確認する必要がある。

【地域の基礎的データ(R02農林業センサスより)】

甘南備:基幹的従事者数:7人(うち50歳代以下0人)、団体経営体(法人・集落営農組織等)1、従業員等47人、
主な作物:水稲、白菜、たまねぎ、温州みかん
蒲:基幹的従事者数:5人(うち50歳代以下0人)、団体経営体(法人・集落営農組織等)なし、従業員等0人、
主な作物:水稲、白菜、栗

(2) 地域における農業の将来の在り方

可能な限り現在の水稲栽培を主とする営農形態を目指す。一方で耕作継続が困難になった場合を考え、農業作業委託の積極的な活用を検討する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	71.9 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	71.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用して、認定農業者を含む地域農業の担い手へ農地集積を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地の貸し借りは、原則として農地中間管理機構を通して行う。
(3)基盤整備事業への取組方針
現状の農道水路の維持管理を行うとともに、担い手不足の中、効率的な営農の実現を図るため、本地区に導入可能な基盤整備事業について検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
耕作の継続が困難な農地について、外部も含め新たな担い手の参入を進める。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
今後、耕作者がいない農地について、農作業委託の活用を図っていく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携	<input checked="" type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①市や農協が実施している防止柵に関する補助事業等を活用し鳥獣被害の防止に努める。
- ⑧農道や水路の補修や更新を実施する必要がある。
- ⑩今後の協議を地区農業委員・実行組合長・水利組合役員等で構成される会議体で進める。